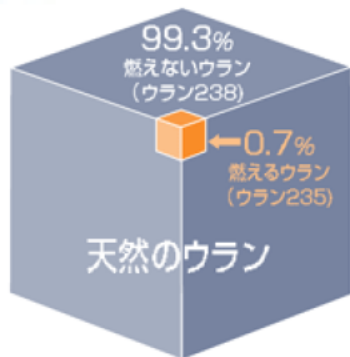
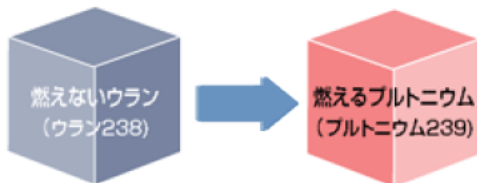


高速炉サイクルの目的（持続可能性）



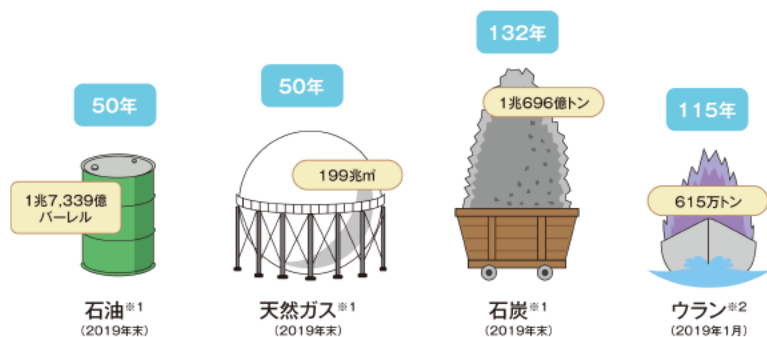
原子炉の中では燃えないウランの一部が変換される



■ 軽水炉を含む現在の炉は天然ウランに0.7%含まれているウラン235を燃料としている。

■ 高速炉はウラン238を核燃料に変換するため燃料の利用可能な部分はウラン235からウラン全体となるため100倍以上となる。

世界のエネルギー資源確認埋蔵量



■ ウランは100年程度で確認資源を消費しつくしウラン価格が高騰する可能性。

■ 高速炉の導入により数世紀に亘る安定したエネルギー供給が可能となる。

(注) 可採年数=確認可採埋蔵量/年間生産量
ウランの確認可採埋蔵量は費用130ドル/kgU未満

出典：(※1) BP統計2020、(※2) OECD/NEA, IAEA「Uranium 2020」より作成